

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・高額品の動きが若干ではあるが、やや良くなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・自由民主党に政権が移ってから、客からは期待感が感じられる。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・円高や株価上昇等の影響はまだ具体的に店頭には出ていないが、一部の高額品等の動きが良くなっている。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・先月までは量販店の特売頻度が多く、販売個数自体は横ばいだったが、今月に関しては量販店用の75円食パンの売行きが好調で、販売個数を底上げし、若干であるが売上が昨年を上回っている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・テレビのバラエティ番組で取り上げられたデザートや総菜の効果もあり、少しずつ売上が伸びている。そのおかげで来客数も増えており、少しずつデザートや総菜の認知度が高まっている。
		衣料品専門店（チーフ）	来客数の動き	・2月後半からフレッシュアース等、まとめ買いの客の来店が非常に増えている。そのため単価も日々アップし続けている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・ディーラーが決算時期ということで、安く買えるのではないかと考える客の来店が多くなっている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・今月は新車販売台数が前年を上回った。好調だった前年を超えることができたのは久しぶりであり、3か月前に比べると確実に景気は上向いている。
		住関連専門店（店長）	来客数の動き	・今年は寒さが長引いたが、今月の中旬以降は暖かさが戻ってきたため、一気に客の動きが良くなった。単価の高い商品も売れている。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	販売量の動き	・最近気候がだんだんと暖かくなり、客足が店に向いている。コーヒーの利用量が若干増えつつある。
		その他専門店【書籍】（地区支配人）	来客数の動き	・入居する館内のイベントスペースの稼働状況や隣接するレストランの来客数等が明らかに上昇基調にある。外部からの導線に近い施設は来客数の増加が見てとれる。
		その他小売【ショッピングセンター】（広報担当）	来客数の動き	・平日の来客数が昨年を上回る日が増えつつある。しかし、客の価格に対する意識は根強く、1点単価及び客単価は上がらない。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・当地では大きなイベントが開催され、曜日と天候にも恵まれ、過去最高の人出となった。宿泊も前年比でかなり伸びている。それに波及してレストランも好調であった。
		都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・2、3月は例年の団体客を含めて予約が多く、個人の動きが非常に活発である。例年に比べて2割ほどの上昇である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・世の中が少しずつ動いている。企業間の動きも活発になっており、人の流れが出てきている。
		通信会社（営業担当）	それ以外	・新政権となり、景気が良い方向に向かっている。どの客からも建設的な意見が出ており、明るい雰囲気になっている。
		美容室（店長）	お客様の様子	・2月は例年売上が落ちるが、今年は思いがけず良くなっている。
		その他サービスの動向を把握できる者【介護サービス】（管理担当）	来客数の動き	・年末年始にかけて入院等の要因で減少傾向であったが、現在増加傾向となっている。3月以降もこの状況が継続する。
		設計事務所（代表表）	来客数の動き	・来客数が増えている。
変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子	・本来、今の時期は売上にしても客の様子も非常に低迷する。しかしながら今年は客に少し活気があるようだ。11月のほうが物の動きははるかに良いが、今年は落ち込みがない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は市議会議員選挙もあり、来街客数が大変減っている。
		一般小売店【生花】（経営者）	販売量の動き	・後半になって、卒業式等の春の注文が入り、良くなっているが、景気が良いとはいえない。

一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・店頭売りは例年と変わらないが、外交販売においては事務所用の給茶器がかなり普及し始めたため、通常の茶葉の売行きが減少している。味よりも便利さに動いていく現状に不安を抱く。
百貨店（総務担当）	販売量の動き	・競合商業施設のリニューアルが行われ、他店に客が流れており、売上が全体的に低迷している。
百貨店（営業担当）	単価の動き	・現金や掛売上の買上単価は前年を維持している。一方、これまで順調であったクレジット利用では来客数や数量はアップしたが、買上単価が減少している。また、紳士服と婦人服が苦戦していたが、客の支持が高い物産催事は好調である。食品は現金、クレジット利用共に好調である。ただクレジット利用への慎重な姿勢が目立った。
百貨店（営業統括）	単価の動き	・来客数、買上客数は増加しているが、客単価が落ちている。主に宝飾や美術、家具関連の購買金額、単価がダウン傾向にある。
百貨店（営業政策担当）	競争相手の様子	・当地中心の駅エリアは堅調である。昨年の春以降りモデルした都心の専門店もおおむね好調を維持している。反面リモデル施策を打っていない地区の既存百貨店や専門店は全体的に苦戦が続いている。消費者の回遊の兆しはみられるが、景気そのものが上向いているとは言い難い。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・株価が上がリ、景況感が改善している旨の報道が多くなされているが、客の声は非常にシビアである。買物の決定にはより時間がかかる。消費税増税への懸念もある。季節の変わり目で、最終処分の商品購入にもシビアである。
百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・必要な物だけを直前に買う傾向が続いており、余裕は感じられない。パレンタイン商戦や防寒雑貨、入学・卒業に着るスーツ等季節商材は健闘しているが、前もって買って準備する客は非常に少ない。必要になるギリギリでの購入が目立つ。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・ガソリンや電気等が値上がりすることで、先行きへの不安感から客は買い控えをしている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・政権交代への期待感のなかで、株高、円安傾向にあり、全体としては景気の先行きに明るい兆しがみられるとのことだが、小売については、今のところ実感はない。相変わらず、オーバーストアによる価格競争のデフレ真ただ中の状況に変わらない。
スーパー（店長）	販売量の動き	・価格への客の目が厳しくなっている。ごく一部で高価格品の動きがある。
スーパー（店長）	単価の動き	・相次ぐ競合店の出店により、価格競争が激化している。単価を合わせることで、来客数を何とか維持できているが、単価が落ち、売上は減少している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・競合店の出店により、来客数が軒並み前年比7%減と落ち込んでいる。1人当たりの買上点数は昨年と変わらないが、来客数の落ち込みが非常に大きい。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・客単価は以前に比べ減少していない。また、来客数もほぼ横ばい状況となっており、営業実績には大きく変化はみられない。しかし、昨年以上の実績を確保するためには、価格を下げる体制を維持しなければならず、客の確保には販売促進経費も投入せざるを得ないため、厳しい状況となっている。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・客の様子として、曜日ごとのイベントやチラシ等で価格の比較をし、買物をする店を替えて利用する傾向が続いている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・2月にしては暖冬のせい、鍋物材料、冬物の商材の売行きが悪い。
スーパー（業務担当）	お客様の様子	・競合と件もなく、大きなマイナス材料は見当たらないが、生鮮食料品の価格が低迷しており、現状の来客数では平日の売上は前年比で横ばいである。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・コンビニエンスストアの客は大半が目的買いの客である。したがって景気が良くなると、目的の商品以外にもついで買いのプラスアルファの購入をすることが多くなっていく。ただ、現在においてはそのような状況はほとんどみられない。消費マインドは上昇に向かっているようであるが、まだ実際に客の行動にまでは現れていない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・少しずつではあるが、客の様子が変わってきている。売上が下げ止まりとなったのが、それとも一時的なものか、売上は微々たるものであるが伸びている。

衣料品専門店 (店員)	単価の動き	・寒さが続くので冬物衣料は動いているが、セール品なので単価が低い。春物の定価品が例年より動きが鈍く、前年の7割程度しか売れなかった。最終売上は前年並みでも、正価販売品率がかなり下がり、好景気感が薄れた。
衣料品専門店 (取締役)	販売量の動き	・3か月前の11月は実需期であった。1、2月は大きなセールの後の端境期になるので、物の動きは極端に厳しくなった。ただ、前年実績は上回っている。景気が良くなっているのはまた違うようで、何とも判断し難い状況である。
衣料品専門店 (総務担当)	それ以外	・当地特有の事情としては、大きなイベントが非常に好調であったことから、ムード的には良い。ただ、現実には同業者の売上状況を聞くと、特に上場企業を中心に、前年に比べてかなり悪い状況である。それは先月、先々月より更に悪い状況になっている。
住関連専門店 (経営者)	競争相手の様子	・毎月のキャンペーンで今月は良い数字が出た。今月は高額商品の商いができた。ただ同業者の会合でも置き家具の売行きは良くない。
その他専門店 [ガソリンスタンド](統括)	販売量の動き	・燃料油の仕入価格の推移に伴い、小売価格が上がり気味である。暖房用の灯油価格も値上がりし、客からは不満気味の声が聞かれる。燃料油の販売量は相対的に昨年並みである。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	販売量の動き	・売上高に大きな変化がない。
高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・今月は1月と比べて少し予約が減っている。2月24日に市議会議員選挙があり、企業があまり動かなかった。当店のような割烹料亭は、企業接待が主になるので、大きな痛手となる。
高級レストラン (専務)	来客数の動き	・3月の会社の異動やそれを見込んで、現在は動きがない状況である。また、すごく寒いので人の出足が悪い。
居酒屋(経営者)	来客数の動き	・売上が前年割れとなっている店舗が多く、飲食店の稼ぎ時である週末も人の少ない日々が続いている。
都市型ホテル (販売担当)	単価の動き	・以前とあまり変わらない状況である。政権が変わっても地方にはすぐに浸透しない。また、中小企業の景気もあまり変わらず、行政の事業も縮小している。
旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・国内LCCの運行から1年が経過するが、既存航空会社に大きな影響はみられない。ただし単価は減少気味である。
旅行代理店(企画)	お客様の様子	・新政権に代わり、株価の上昇や円安の進行により、景気は上向きのようなようであるが、実感には至っていない。
タクシー運転手	お客様の様子	・景気が良くなっているのかもしれないが、タクシーの動きは朝だけ、夕方だけの状況が続いている。
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は思った以上に客の稼働が良く、売上もアップした。ただ夜の稼働は選挙の関係で今一つだった。
通信会社(管理担当)	それ以外	・3か月前と変わらず資金繰りが厳しい。
通信会社(企画担当)	販売量の動き	・引越しシーズンという特殊要因を除くと販売量に変化がみられない。
通信会社(業務担当)	販売量の動き	・2月も先月同様、販売台数は昨年より落ち込みが大きい。スマートフォンの販売比率は上がっているが、従来型の携帯電話の販売が著しく低下している。週末も来客数、売上台数共に昨年の勢いはなく、全体の販売台数としては厳しい状況が続いている。
通信会社(総務局)	販売量の動き	・対象は個人消費者向けが大半であり、特段変化はみられない。
ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・2月は例年入場者数が最低となる。冬場の雨と寒気団が交互にくるため、ゴルフは敬遠される。昨年よりは今年のほうが雨は少なく、土日の入りは良い。しかし、月後半の市議会選挙期間中はゴルフを自粛する人が多く、客足は伸びなかった。
美容室(経営者)	販売量の動き	・3か月前の年末と比べると、どうしても今一つ景気回復の動きが遅れている。1、2月の売上はどうしても横ばいの傾向にあるが、政府の景気対策が少しずつ功を奏しており、上向きになってくることが期待される。

	設計事務所（所長）	お客様の様子	・新政権に代わって期待感があるのか、建て替えの相談や改修等の話が若干増えている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・仲介業務やマンション、一戸建の分譲業務における客の様子をみると、景気が良いという実感はない。消費税増税前の駆け込み需要が予想されていたが、そこまでの動きは今のところみられない。静観している様子が見受けられる。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・営業担当に聞くと消費税増税への関心は高まっている。ただし、現状ではそれが契約への動機づけにまでは至っていない。
	住宅販売会社（代表）	お客様の様子	・基本的にはあまり変わっていないが、消費税増税や金利の上昇を考えている客の動きが少しある。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・12、1月の出費が大きく、2月は客の動きがあまり良くない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・寒い日の来客数は極端に減っており、大型店に集中している。当地ではお雛様関連の展示やイベントがあり、土、日曜日の人手はいつもより多かった。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・3か月前に比べると年賀状などの印刷がない分、売上が減少傾向である。しかし、当社のレーザー彫刻の動きが良い傾向である。ただ、全体的には若干悪い。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・客の購買動向がかなりシビアになってきている。例えば婦人服はジャケットとスカートの組み合わせで買っていたが、手持ちのスカートに合わせるジャケット、もしくは手持ちのジャケットに合わせるスカート、パンツ等、手持ちの物をいかに生かすかを考えている客が多い。買い方が非常にシビアになっている。
	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・同業の2社の様子を見ると、1社の11月の売上は前年比5.4%増、2月は同1.7%増であった。もう1社は11月が前年比4.8%増、2月は同4.0%減となっている。当社は11月が前年比3.6%増、2月が同3.5%減となった。2月に地元の大きなイベントが開催され、来客数は前年を上回っている。客は入っているものの、売れていないという状況である。単価がダウンし、購買率もかなりダウンしている。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店が今までのスーパーマーケットからディスカウントスーパーに業態を変更し、当店は前年比7%減で推移している。ディスカウント化にはとてもかなわない状況であり、しばらくこの状況が続く。あと2か月すると1年になるため、2か月後には昨年並みの売上となる。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・衣料品と住関連商品についての来客数の減少が顕著である。衣料品においては婦人服、子ども服、下着関係の動きが悪い。
	コンビニ（店長）	販売量の動き	・販売量は、減少する一方である。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・今月の景気は前年に比べて非常に悪く、12月で若干盛り返したにもかかわらず、販売量が相当な落ち込みとなっている。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	それ以外
	高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・予約数、来客数、客単価がいずれも低調である。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・地元プレー者の入場者数の動向が落ち込んでおり、県外や海外からの客も軒並み減っている。景気が良いようにみえるが、実際の観光サービス業は停滞気味である。
悪くなっている	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	販売量の動き	・時化のせいなのか、温暖化のせいなのか魚の入荷量が少なく、魚価は上がるはずだがそれほど上がっていない。どこの店も鮮魚が売れていないのが原因である。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客がほとんどなく、たまの来客も見ただけで売上に繋がっていない。
	家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・春需要は盛り上がり欠け、年間最需期を迎える携帯電話も動きが悪い。
企業動向	良くなっている	-	-

関連 (九州)	やや良くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・毎年のものであるが、1、2月は予想通り大変厳しい内容であった。3、4月以降は大手加工メーカーの新規の取引等が入り、また居酒屋、スーパー関連等は行楽行事等のシーズンでもあり、かなり期待できる。
		繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・少しずつ受注量が増えており、同業者は忙しくなっている。例年よりも寒いことも、良い影響を与えている。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・毎年2～4月は繁忙期であるが、例年以上に受注が増えている。特に店舗用特注家具製作工場はどこも1か月以上先まで生産予定が入っており、急な納期対応が追い付かない状況である。例年の指数を100としたら120くらいの状況である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて2月の実績は良くなっている。ユーザーにとっては円安が影響している。
		精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注先からの要望で生産が増えている。今後の生産計画も増えつつある。
		通信業（経理担当）	それ以外	・当社の企業年金の運用実績が期待収益を突破し、楽観シナリオの上限設定値まで達した。
		金融業（営業）	取引先の様子	・円安により、製造業の海外生産の移転は、小休止の傾向にある。国内生産が維持されており、下請企業も安定した受注を受けている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・建設業を中心に受注工事件数、金額共に増加傾向にある。中小零細企業も全体的に建設関係の事業者は受注が増加傾向にある。また、資金需要も運転資金金融の相談が増えている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・株価上昇や円安が取引先のマインドを大きく改善している。
		新聞社（広告）（担当者）	受注量や販売量の動き	・売上をけん引する通信販売や旅行が前年比10～50%増と前年を超える出稿量であった。また不動産や金融も前年を上回り、全体でも前年を上回った。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・数字として把握できてはいないが、全般的に忙しい。若干、販売量も増えてきており、動きが出ている。不動産関係の動きも若干出てきているという話をよく聞き、本格的に景気は良くなってきている。
		経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・新店の出店が始まっている。新商品の開発も少しずつ前向きに動いている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に業況を聞くと、良くなってきている、仕事が増えてきているという回答が多くなっている。
変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売量はここ何年かは下降気味であるが、売り方次第で売上は上がる。物産館で試食や店頭販売を行ったが、客は商品、価格に納得すれば購入する。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2、3か月前とほとんど変わっていない。世の中は円安傾向で経済も大分動いているが、焼物業界ではその傾向がみられない。特にギフトは例年に比べると落ち込んでいる。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・あらゆる業種で設備製作や機械部品加工の受注量が伸び悩んでいる。	
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の発注がなく、景気はあまり良くない。この時期、繰越工事の発注があってもいい時期であるが、なかなか発注されていない。手持ちの工事も工期を迎えている。早期の発注を期待する。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店やスーパーでは売上がやや減少しているが、コンビニエンスストアの売上は前年を上回っている。また、住宅投資は回復傾向にある。一方、自動車関連等の輸送機械や鉄鋼関連業種の生産がやや減少し、雇用面も引き続き厳しい状態が続いている。	
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・経済関連各種指標に改善の兆しが見受けられるが、企業を取り巻く実態経済は依然として厳しい状態が続いている。景況感に大きな変化は感じることはできない。中小零細企業を取り巻く環境はますます厳しさを増しているような状況であり、事業の継続を断念する企業も発生している。当該企業を始め、取引先の業者も先行きを懸念している。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・営業活動を行っているが、全然反応がない。	
やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・円安になり、生乳販売は厳しい状況になっている。飼料の価格が上がってきており、非常に厳しい状況である。	
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・需要がピークを過ぎたため、売上は減少している。	

	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量と販売量の動きが止まっており、今後6月を過ぎないと動きが分からない。非常に重苦しい空気になっている。また少し動きだしたとしても、以前からすると操業に値する数字ではなく、大変厳しい局面にある。
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・全体的に荷物の動きが良くない。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・倉庫に預かっている荷物の荷動きが非常に悪くなっている。
	悪くなっている	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子 ・国の平成24年度の補正予算で建設関係の事業が盛り込まれているが、市町村での補正予算は少なく、私たちの建設コンサルタントにも発注されていない。実態として、仕事の少ない状態は変わっていない。
雇用関連	良くなっている	-	-
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	それ以外 ・目の前の求人数が増えているわけではないが、雇用主の意識及び求職者に光明がさすのではとの明るい期待感が出ている。期待感は景気の実態よりも大事であり、この意識が全体を持ち上げることになる。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き ・求人数が前年比30%増となっており、企業の求人ニーズが堅調である。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き ・3月を機に転職する人が増えている。在職中にもかかわらず転職活動する人が増えている。不況で仕方なしに働いていた労働者に、転職で気分転換をしたいという余裕が出てきた。条件は良くなっているとはいえないが、求人数は増えている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き ・既存の客からの追加注文が増えている。企業によっては10名単位で注文がある。
		人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子 ・景気が良くなるだろうといった声を聞く機会が増えた。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外 ・株価の上昇や円安傾向により、景気は良くなっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求職者数の動き ・地元の求人の動きはまだ弱いですが、県外からの求人数は増加傾向を示している。
		職業安定所（職員）	それ以外 ・若干の変動はあるが、前年同月と比べ新規求職者数は減少している。さらに新規求人数は増加傾向にあるため、有効求人倍率は上昇しており、景気はやや良くなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・新規求人数は前年比で4か月連続増加しており、求人意欲が高まっている。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き ・昨年度の求人件数は前年度を若干上回ったが、今年度の求人件数は前年度を更に上回っている。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き ・サービス系や航空系、システム系を中心に前年同時期よりも採用時期が早く、採用人数が増加している。	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き ・半導体企業の閉鎖があり、求職者は増えているものの、求人数は少ない。事務所を統合する動きもあり、求人数は減少傾向にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子 ・求人広告の状況を見る限り、景気の回復から求人広告が増えたとは言いがたい。
		職業安定所（所長）	それ以外 ・例年同様、年末での退職者やそれに伴う求人等季節的な様相に特に変わった動きはない。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き ・更新確認の時期であるが3月派遣終了という客の声がある。予算がとれるかどうか等、派遣継続の確定をしたところが多くない。
	やや悪くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	周辺企業の様子 ・例年1～3月期は求人需要が活発で、これまで当社もこの期に利益を稼ぎ出していたが、売上が低迷している。単価が下がっており、求人件数にも伸びがない。介護関係や給食関係、清掃関係等の労働集約型で、割と低賃金の業界での採用が厳しくなっている。また、建設関連の求人需要も出ているが、採用は厳しい。
	悪くなっている	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き ・求人数が全く伸びておらず、次年度へのマイナスの影響が懸念される。